

変えよう！  
ニッポンの  
家づくり

# 新建ハウジング

THE SHINKEN HOUSING

2022  
8|20  
Vol.940

12・13面 「ネクストジェネレーション」 “やってみる”から始まる、性能向上リノベに挑戦

14・15面 「ナノ工務店の経営術」 設計事務所と工務店の中間を目指す

17面 「トラブル事例」 打設後の基礎は乾燥？湿潤？施主への説明でトラブル

24面 屋根・耐久性向上 工務店が開発、簡単施工の透湿ルーフィングと通気胴縁

1-11面

## 暮らしに寄り添い、支える がんばる地場工務店

夏の恒例企画「がんばる地場工務店」は、工務店らしい家づくりやあり方を見つめ直します。厳しい社会・経済情勢だからこそ、地域の人たち（顧客）の暮らしに寄り添い、支えるという地域工務店の本質的な存在価値が問われています。家づくりへのこだわりと情熱、それぞれの住まい手に対する強い想い、地域への使命感といったまねのできない価値を推進力に変えて、立ちはだかる危機的な市場を突破しましょう。本特集では、地域に根差し、小さくてもキラリと輝きを放つ、各地でがんばる工務店の事例を取り上げました。全国の読者から寄せていただいた、ふだんの工務店の風景と、そこににじみ出る工務店らしい家づくりや人の魅力を切り取った写真も紹介します。皆様の元気のもとになれば幸いです。

- 01 獅子倉工務店 [埼玉県朝霞市]
  - 02 WARMTH 坂口工務店 [富山県富山市]
  - 03 古民家ライフ [山形県山形市]
  - 04 樹々匠建設 [静岡県浜松市]
- 写真で見る 工務店の風景



新建ハウジングがオンラインで読める！

お問合せ・定期購読お申込み先

0120-47-4341

購読料：29,040円（税込）／年 毎月10・20・30日（別冊付録）

https://www.s-housing.jp



「タロイド判」「別冊付録ワンデーマガジン」をオンラインで  
閲覧できるサービスを提供中です。

ログインページ: <https://www.s-housing.jp/webviewer>  
※詳細は上記URL (QR) をご確認ください。

YKK AP

お好みの壁紙が貼れるドア、新登場！

インテリアドアシリーズ

famitto [ファミット]

YKK AP株式会社 <http://www.ykkap.co.jp/>

新建新聞社

東京 〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目3番地3 FDC 麹町ビル7階 TEL (03) 3556-5525 FAX (03) 3556-5526  
長野 〒380-8622 長野県長野市南陽町686-8 TEL (026) 234-1211 FAX (026) 234-1310



# 県産材の魅力と手刻みの技術を生かしている 大工が設計する木の温もりあふれる心地いい家



GANJIBA  
かんじば 建築工務店

02 WARMTH 坂口工務店 〔富山県富山市〕

「社名にある WARMTH には、休日に関族みんなでゆっくりと過ごしたくなるような、暖かく快適で、木の温もりがあふれる心地いい家を届けていきたいという想いを込めました。そう語るのは、WARMTH 坂口工務店（富山県富山市）社長の坂口智志さんだ。地元の木を使い、伝統の大工の技術を生かしてつくる、性能やデザインにも優れる家々が、地域の人の心豊かな暮らしを支えている。



WARMTH 坂口工務店 社長 坂口智志さん

WARMTH 坂口工務店  
所在地：富山県富山市  
太田中区 33 番地 12  
設立：2020 年法人化  
社員数：4 人  
年間新築受注：3 棟  
新築坪単価：約 70 万円

21 歳から父のもとで大工修業をスタートし、いまでも現場でたたき続ける坂口さんは手刻みで加工した木材をあらわしにする、木と大工の伝統的な技術を全面的に生かした家づくりにこだわる。坂口さんは「僕自身、いまでも現役の大工で、父から受け継いで身につけた技術を発揮したいという思いがあるのと同じ時に、これを生かさなかったら“自分たちらしさ”がなくなってしまうし、(競争の激しい市場に)埋もれていってしまう」と話す。

## 【木のポテンシャル生かす 天然・低温乾燥材を活用】

住宅業界で、国産材や地産地消(資源の地域循環)の観点から地域材の活用が叫ばれて久しいが、坂口さんは「真の意味で地元の木の良さやポテンシャルを生かして家を建てるためには、大工の目と技が不可欠なはずだ」と訴える。同社では、製材・乾燥後にブリーナーで指定寸法に仕上げる前の段階の木材について、納品される前に必ず自ら材木屋の倉庫に出向き、品質チェックから選木・番付まで行う。坂口さんは「品質を

材木屋さん任せにはしない。チェックして問題がある木材は仕上げる前に取り換えてもらう」とし、「どの木材をどこにどの向きで使うかもそこで全て決めるため、ロスのない効率的な加工(刻み)、建て方にもつながる」と説明する。

構造材に用いる富山県産のスギ材などの乾燥は、天然乾燥か低温乾燥に限定。「高温乾燥すると木が死んで工業製品になってしまう。色も違うし、木特有の粘りや香り、調湿機能も落ちてしまう。長いホゾなどを手刻みで加工するわれわれにとって“内

部割れ”を起こしやすい高温乾燥材は使えない」と坂口さんは話す。

## 【「木組みの階段」が 空間のアクセントに】

木の特性を知り尽くした大工がその技術を生かして組み上げた木組みをあらわし、塗り壁や無垢板といった自然素材の内装材と組み合わせること、清浄で健康・快適な空間が生まれる。その空間の意匠的なアクセントとなり、同社の家づくりの特徴の 1 つにもなっているのが、伝統の大工技術を生かして造る建具や家具だ。木栓で

締め固めながらつくる「木組みの階段」や「木組みのスツール」などが施主から好評で、そのほかにも地元の建具屋に依頼して家ごとのテイストに合わせて製作する玄関ドアによってデザイン性を高めている。

坂口さんは、手刻みという伝統的な技術を生かし、継承していくために「常に努力を忘れず、家づくりをアツアツデザインしていかねければ」と力を込める。「手刻みだから(価格が)高くてもいいとは絶対にならないし、デザインや性能面でも若い人を含む今の住





GANJIBA  
かんばる建築工務店



WARMTH坂口工務店による住宅の施工事例。地元の木を使い、手刻みなど大工の伝統的な技術を生かしながら、性能やデザインなど現代の住まいや暮らしに対するニーズに応えるのがこだわった

宅や暮らしに対する価値観やニーズに応じていかなければ」と話す。そうした想いを形にするように、昨年の春、家づくりの志を共有する富山県内の建築家の荒井好一郎さんとコラボし、富山市内にモデルハウスを新築・オープンした。

耐震等級2とZEHに近い

水準の断熱性能を確保しながら、「県産材を使って県内の職人が県内の人たちのためにつくる規格型住宅」をコンセプトに掲げてつくった。分譲地の一角に、木や自然素材を用いて内と外とのつながりを大切にした家づくりを

手がける県内の2社の工務店と協働し、3棟が並ぶように建てたもので、坂口さんは「自分も成長できるチャンスだと感じてプロジェクトに参加した。ここを訪れた人たちに自分たちがつくっている家を体感してもらいながら、同時に自分たちの想いも伝えていきたい」と語る。

#### 【大工技術の付加価値と顧客満足度を同時に高める】

同社の強みの1つは、坂口さん自身が設計から刻み加工、現場施工・管理まで一貫通貫で手がけるスタイルだ。坂口さんは「僕が設計をして伏図も描いているので、その

段階から刻みや建て方、納まりなどについてもイメージできる。デザイン性はもちろん大切だが、図面を複雑にし過ぎると木材のロスや非効率な作業などが増えてくると、設計・刻み・現場が連動していることのメリットを説く。

効率性だけでなく、例えば坂口さんが新たに取り入れたいデザインやディテールなどを思いいついた際の実行のスピードが速く、現場におけるイメージ(設計)の再現性も必然的に高くなる効果もある。創造性やものづくりの楽しさを大切にする同社の家づくりに最適な仕組みとも言える。

坂口さんは、建築家の瀬野和広さんをリスペクトしているという。「瀬野さんの本を初めて読んだとき、第一印象でこれを書いているのは大工じゃないかと衝撃を受けた。それほど大工の技術に精通した空間やディテールが並んでいた」という。その瀬野さんが設計した県内の住宅の

施工を手がけた経験もある。そうした経験も生かしながら、今後も大工の技術の付加価値を高めながら、それによつて顧客にも喜ばれるような空間やディテールを自分なりに模索していく考えた。

#### 【「手刻みの仕事したい」大工志望の若者が入社】

WARMTH坂口工務店は、家づくりのオーナーらを対象に、ものづくりのワークショップなどを行う「輪結(ワムス)クラブ」の活動を通じてコミュニティをつくり、絆を深めている。コロナ禍になる前は、親子で参加できる木工教室やオーナー宅に集まって開いたもちつき大会など、さまざまな活動やイベントを行っていた。「オーナーさんには活動やイベントを楽しんでもらいながら、メンテナンスの方法など、家に愛着を深めてもらいながら長く使っていくための住み方、暮らし方といった情報を伝えたり、オーナーさん同士でより良い方法をシェアする場にもなっ

ている」という。「コロナが収まったら、ぜひまた活発にやっていきたい」と坂口さんは張り切る。

地道にコツコツと続ける自社の家づくりが、「地域の人たちに少しずつ認知されてきている」と手ごたえを感じている。この春には、職人を育てる県内の専門学校「職業学院」を卒業し、「手刻みの仕事ができる」という大工志望の若者を社員として迎え入れた。坂口さんは「県産材を使った家づくりだったらずらりWARMTHだね、坂口工務店だね」そんなふうに見える工務店になつていくのなら」と理想を描く。



加工場で大きな丸太材を刻む様子。大工の技術は自社の家づくりのカギを握る生命線だ

## eyes

記者の目

編集部・関 卓実

「大工が地元の木を使って手刻みで建てる家」と聞くと、何となくごつい感じを想像するが、大工であり、2級建築士でもある坂口さんが設計するWARMTH坂口工務店の住宅は、内観・外観とも世代を問わず若年層にも人気が出るであろうモダンな雰囲気も宿している。注文住宅は、ほぼ全棟でZEH基準をクリアし、エアコン1〜2台で全館の冷暖房を賄うことのできる性能も備える。大工の伝統的な技術と地元の木が持つポテンシャル(魅力)を生かしきり、付加価値として空間・ディテールに落とし込みながら、同時に顧客満足度も高めていくという“離れ業”をやっている坂口さんのこだわりと情熱に打たれた。「木組みの階段」も「木組みのスツール」もカッコいい!